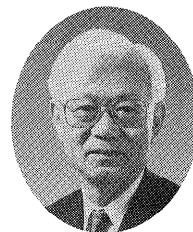


巻頭言

会長就任にあたって



戸 田 巖

富士通 (株)

このたび多数の会員のご推薦をいただき会長の重責を担うことになりました。当学会の発展のためベストを尽くす所存でございますので、会員、役員の皆様の積極的なご支援とご協力をお願い申し上げます。就任にあたって学会運営についての私見を申し述べます。

当学会の現在の会員の所属を分類すると大学、公的研究機関が約 30%、コンピュータ会社が約 50%、ソフト会社とユーザがそれぞれ約 10%です。また会員数は 1991 年度の約 32,000 名をピークに、1997 年 3 月には 28,873 名へと減少を続けています。これらの数字は今後の学会活動を考える上で重要なヒントを与えてくれます。

まず、この会員分布は学会活動は情報処理技術の研究の積極的支援、最新の技術動向の普及の双方を、同等の重要性をもった車の両輪として進めなければならないことを示しています。研究促進は学術・技術のトップレベルの持ち上げを狙った活動であり、普及は社会の平均技術レベルの向上を目指した活動です。両者を明確に区分し、前者には論文誌、研究会を、後者には学会誌、講習会などを活用すべきだと考えています。

次に最近の PC、インターネット、イントラネットなどの普及を考えると、ソフトウェアハウス、ユーザ会員がもっと多くて当然の気がします。しかしこの両者での退会者の割合はそれぞれ 10%に達しており、大学、コンピュータ会社会員の場合に比してずっと大きな値です。このことは現在の当学会の活動が大学、コンピュータ会社会員向けで、ソフトウェアハウス、ユーザ会員向けになっていない可能性を示唆しています。

いままで積極的支援を与えてくれた大学、コンピュータ会社会員には十分に感謝すべきですが、今後ソフトウェアハウス、ユーザ会員、とくに若い会員が興味をもてる学会活動に変えていく必要があります。

PC の売上がメインフレームを抜き、コンピュ

ータが通信、放送と融合する時代です。モノ作り、ソフト作りはどんどん海外に出ていっています。今後の日本情報処理産業では開発、サービス、コンサルティングなどがより重要になります。狭義のコンピュータ技術に白ら閉じこもることなく、ネットワーク、コンテンツ、アプリケーション、サービスなどの新領域へ積極的に展開すべきであると考えます。この観点から当学会の活動をみると、アプリケーション関連などの活動の割合が米国の IEEE や ACM より低いように思います。

ネットワークの時代は大競争の時代でもあります。当学会が生き残っていくためには国際化が不可欠です。すなわち、質の高い情報をネットワークを通じて国際的に発信し存在をアピールすることが重要です。また欧米、アジアの関連学会、さらには ISO、JTC1 などの国際標準化機関と共同活動を行うほか、ネットワークや人的往来を通じて積極的に交流し会員に国際的な体験や情報を提供することが重要であります。

最後に学会の業務改革です。まずネットワーク化の推進です。ネットワークは会員、学会相互の情報交流と学会業務のスピードアップとコスト低減のための強力な武器です。紺屋の白袴とならないように、さらにほかの団体の模範となるような上手な使い方を実践すべきと考えます。また学会の財務改善はボランティア団体の宿命と考え取り組みます。

ご存じのように情報産業は、当分 2 桁成長が期待されている恵まれた成長産業です。情報産業に関連した技術者の集まりである当学会の将来も洋々たるものがあります。以上述べた課題に果敢に挑戦して、当学会の役割である情報処理の学術・技術の発展と普及、会員の社会的地位の向上、関連団体、会員相互の連携を進めたいと考えます。重ねて皆様のご支援とご協力をお願いします。

(平成 9 年 4 月 28 日)